

土木工学・建築学委員会 気候変動と国土分科会（第25期・第10回）

議事要旨

日時 令和5年1月25日（水） 13:00～15:00

会場 遠隔会議(zoom)

分科会出席者（敬称略）：池田（委員長）、沖、大原、小松、小森、清水（幹事）、田井、田村（圭）、田村（和）、塚原、永野、持田（幹事）、望月（副委員長）、安福

オブザーバー：若干名

議 題

- 1) 前回の議事概要について
- 2) 見解の案について（望月委員）
- 3) 公開シンポジウム「水害対策と建築分野の取組み」の開催について（田村（和）委員）
- 4) 意見交換
- 5) その他

---

議事概要

◇議事1) 清水委員より前回議事要旨についての確認を行った。

◇議事2) 望月委員より見解の説明がなされ、その後、質疑が行われた。その概要は次のとおりである。

小松：上下流問題については触れなくても良いのか。←（望月）この見解ではまず、社会全体で対応しようとするのがキーワードになっていて、その上で、先を見通して科学技術サイドがやるべきことを書いている。全員がリスクを抱え変化の中でどう生きていくかという共通認識が大切で、上下流問題のようにお互いの利害関係を前面に出したアプローチとしていない。共通認識を持つことで上下流問題の解決にもつながるので、ここではあえて言及しない。←（池田）この答申ではまず、科学・技術の視点から検討し、何が提案できるのかの観点で書いており、上下流問題を議論するにはこれに加えて社会学での議論も大切と考えている。したがって今回はその議論は避け、科学・技術の視点に絞った。

田村（圭）：見解の構成が最初に土地利用で、最後に住宅で展開する形になっており、その間にある市街地の話題がどうあって土地利用と住宅につなげるのかが分かりにくく、その視点の代わり具合が理解できなかった。←（望月）ここでは市街地の中でも住宅地に焦点を置いている。←（田村）それであれば、最初に、住宅地の方が重要なので土地利用に着目していると書いた方が分かり易いのではないか。←（望月）ここでは都市計画的な土地利用の話題には触れるつもりはなく、市街地の中でも他の利用はあるが、住民に直接につながる住宅地について検討することにした。そこで得られた知見は住宅地以外の土地利用にも使える。←（持田）市街地の中に会社や病院、市役所等の重要施設があって、それらがなく、住宅のみに言及していることに違和感があるのは最もだと思う。しかし、これまでの防災が人命を守ること、避難に特化してきた中で、P. 10, 2行目—3行目にあるように、一人一人の住民の視点で見れば、命だけではなく、その被災後の生活も重要で、今回住宅に焦点をあて、生活の基盤である住宅の重要性に注目したと言うことになる。（田村）全体については異論ないが、そこを詳しく説明されると良い。←（池田）住宅以外でも、家屋、建物を使う言葉も考えたが、住民個人が一番困るのは、やはり住宅で、ここではそ

れを使うことにした。

小森：耐水化を進めると、逆にリスクの高い地域から移転しなくなるのではないか。そうすると、土地利用と耐水化すなわち脆弱性を小さくすることについて、どのような見解をここで持っているのかについて述べておく方が良い。←（望月）見解ではその議論までは踏み込まないようにしているが、破堤して被害が大きくなるような地域ではまず住まないことを前提としている。（小森）都市部では内水氾濫の被害が卓越するので、耐水化についてはそのような観点をに入れて置くべきではないか。←（望月）内水の重要性は全くその通りであり、内水については考えていて、本文中で低速流浸水という言い方で扱っている。

（小森）学術会議提言（2020年）「気候変動に伴い激甚化する災害に対しグリーンインフラを活用した国土形成により“いのちまち”を創る」ではグリーンインフラに焦点をあてた土地利用について言及しているので引用したら良いのではないか。また、潮位解析の関係では、東北大学・風間先生のグループが、潮位と洪水の複合災害を検討しており、その中で気圧の再現期間から、潮位と降水量の再現期間を再評価して全国のリスク評価を行っているので参考になる。←（望月）その論文は読んでみたが、ここでの検討と若干、主旨が異なっているという理解である。（小森）土地利用変化に関しては、水田の宅地化によって遊水地効果が消失する観点もあるものと考える。←（池田）土木学会等で議論している多段階浸水想定が出てくるので、耐水化で住める所、住めない所が明確になってくる。したがって、今後、リスクの高い地域からは移転せざるを得ないという議論に進んで行くことになる。

以上、頂いた意見等についての修正等の対応は、池田委員長を中心に田村（和）委員を含めた幹事会に一任することが了承された。

◇議事2）田村（和）委員より、建築分野の水害対策に関するシンポジウム開催（R5.3.8開催）について説明がなされ、その後、質疑が行われた。

小松：我々の参加はZoomになるのか、Youtubeになるのか。←田村（和）分科会の委員はZoom参加を考えている。こちらについては別途、連絡する。

◇議事5)その他

池田委員長より、土木工学建築学委員会全体で委員会手当の余裕があるので、本分科会で1回も委員手当を受け取っていない方があれば、委員長へ申し出てほしい旨の説明がなされた。